

平成31年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る
研究推進実施計画書

尾道市立因北中学校 校長 椿 靖 印

1 学校経営構想 (別紙)

学校経営目標

心豊かで自ら求めて学び 生き生きと活動する生徒の育成

スクールミッション

○「学びを深める」授業改善を通して、結果にこだわる組織体制の確率

目指す児童生徒像

- 高い倫理観，豊かな感性とたくましい実行力を持ち，自分らしい生き方を追究する生徒
- 言葉を大切にし，自ら学び，考え，表現できる生徒
- 広い視野と多様な価値観を大切にし，自ら未来を切り拓き地域から世界へ飛躍する生徒

2 教育研究構想 (別紙)

3 研究の概要

(1) 研究主題・副題

- 研究主題 学びを深める
- 研究副主題 互恵的な授業づくりを通して

(2) 研究主題の設定理由

○本校はこれまで、因北ナビゲーションに基づき学習規律の確立を図るとともに生徒相互の共感的理解を深める取組を進めてきた。また、生徒に自己存在感を味わわせるとともに学力向上を目指して「『わかる授業』『できる授業』の創造」を研究主題として、知識・技能の定着を基盤とする授業改善を図ってきた。その成果として、生徒は落ち着いた雰囲気の中で学習活動を行うことができるようになってきている。しかし、定期的を実施する生徒質問紙によると自己肯定感に係る数値が低く、また、不登校傾向の生徒数は全国平均よりも高くなっており、めざす生徒像の実現に向けて解決すべき課題は大きい。

そこで、生徒指導と教科指導との一体となった指導を教育研究の基本に据え、基礎的基本的な知識や技能の習得を中心とする授業に加え、学習内容を吟味・検討する学習を取り入れることにより知識や技能を支える汎用的なスキルを高めるとともに、学習内容の理解を一層深め、生徒の学力をさらに向上させていくことを通して、生徒の自己肯定感を高めるとともに不登校傾向の生徒の減少を図る必要があると考え、本主題を設定した。

(3) 研究のねらい

○第1年次の研究成果を踏まえ、授業における「関心を持つ」段階、「自分の考えを作る」段階、「考えを深める」段階において、生徒が主体的に学ぶために効果のあった指導方法を活用し、各教科等の指導目標を達成させることにより、生徒に協働的に学ぶことの成功体験を生徒の自信へとつなげ、生徒の自己肯定感を高めさせたい。

(4) 研究仮説

○支持的風土の醸成の取り組みを行うとともに、生徒の主体的な学びを生み出す授業づくりを行い、協働的な学びの成功体験を積ませることにより、生徒の自己肯定感が高まり、生徒の学力も向上するであろう。

(5) 研究内容（研究の方向）

- ① 各教科に明らかになった「生徒が主体的に学ぶ」ポイントを活用し、各教科や単元に応じた指導計画を作り実践する。
- ② 一人1回以上、提案授業の指導案を作成するか提案授業を行う。
- ③ 定期的に校内授業研究を行い、VTRを活用した研究協議会により「協働的な学び」や「自己肯定感の高まり」について生徒の姿から成果や課題を明らかにする。

(6) 検証の指標

- ① 本年2月（2、3年）と4月（1年）に実施した標準学力調査結果と第2学期実施の定期考査との比較（平均正答率）
- ② 生徒質問紙の自己肯定感に係る項目の6月・7月と12月（再調査）の結果の比較（肯定的割合）
- ③ 生徒質問紙の課題発見・課題解決学習に係る項目の6月・7月と12月（再調査）の結果の比較（肯定的割合）

(7) 到達目標

- ① 定期考査における思考力・判断力・表現力に係る問題の正答率
・標準学力調査+10ポイント
- ② 生徒質問紙における自己肯定感に係る項目の肯定的割合
・6月・7月実施の割合+10ポイント

4 指導・助言者

氏名	所属・職名等	備考
古賀洋一	島根県立大学・講師	

5 研究計画

月日	研究内容	講師
6月21日	校内授業研究	古賀洋一先生
9月6日	校内授業研究	古賀洋一先生
11月15日	授業公開	古賀洋一先生 ※他1名の講師
1月24日	校内授業研究	古賀洋一先生